

【酒田市】 校務ＤＸ計画

1. 校務ＤＸ化の現状及び成果

本市では、令和３年度からの１人１台端末活用に合わせ、市内小中学校の普通教室を中心に無線接続環境を設置し、学習系ネットワークを構築した。これにより従来利用していた校内ＬＡＮは校務系パソコンで利用するネットワークとして活用し、児童生徒が利用するネット環境とは分離した環境を構築している。

本市における校務ＤＸ計画は、令和２年度の指導要録の電子化からスタートした。その後、令和３年度には出席簿、令和４年度には通知表、令和５年度には調査書の電子化を計画的に進めてきた。令和６年度にはブラウザ版アプリとも連携し、保護者からの欠席連絡を校務支援システムに取り入れ、指導要録・出席簿・通知表・調査書の欠席日数を自動で算出するなど、徐々に統合型校務支援システムとして整いつつある。

令和６年度から導入されたブラウザ版アプリは、教員用と保護者用があり、教員用においては、職員の出退勤時刻の管理（出勤簿への押印機能を兼ねる）、児童生徒の欠席・遅刻連絡の把握、災害時の安否確認ができる。保護者用においては、学校への緊急連絡（管理職へのメールを使用した連絡）、欠席・遅刻連絡の送信、災害時の安否確認の送信、電子お便りの閲覧ができる。なお、お便りは教育委員会が発行するものも閲覧することができ、ペーパーレス化に貢献している。

教員には、Ｇｏｏｇｌｅアカウントが１人につき１アカウント付与されている。これによってＧｍａｉｌやＧｏｏｇｌｅドライブを利用することができ、データの送受信や共有を行っている。また、それに伴って「酒田市小中学校情報セキュリティポリシー」を策定し、情報資産の管理等を適切に行っている。

保護者への一斉連絡ツールとして、メーリングリスト（連絡メール）を運用している。各校において入学年度で登録・管理を行っており、災害や害獣等による緊急連絡や教育委員会や各学校からの連絡に利用している。

各校と教育委員会においては、共有ファイルサーバーを利用し、ファイルの共有や交換等を行っており、ＦＡＸの利用削減に役立っている。

2. 校務ＤＸ化の課題

校務支援システムにおいては、市役所にサーバーを置くネットワーク型のシステムになっているため、アクセスが集中すると文書が発行されるまでに時間を要するケースが報告されている。

ブラウザ版アプリについては、保護者への浸透度が7割程度というところもあり、学校側からは、保護者への連絡ツールとして更なる改善を求める声が寄せられている。メーリングリストについても、受信したメールが迷惑メールに入ってしまう、気づかなかったというケースが報告されている。

情報資産の持ち出しに関しては、教育委員会が指定するアカウント（G o o g l e アカウント）のドライブを利用している。しかし、ネットワーク環境の遅延から同期が行われず、業務に支障をきたしているという報告もあり、ネットワーク環境の改善が急がれる。

連絡メールに関して、近年はアプリを利用した管理をしている自治体も多く、アプリの導入を検討しなければならないと考えている。

3. 校務D X化の今後の計画

（1）校務支援システムについて

令和7年度は現場の教員の意見を伺いながら、システムの改修に取り組む。また、システムの利用促進を図り、教員が異動する際の負担を軽減していきたい。ネットワーク環境とも関わってくるが、安定したシステムの運用についても、引き続き担当企業と相談しながら進めていきたい。

（2）保護者との連絡アプリの導入

現在メーリングリストとブラウザ版アプリを組み合わせることによって保護者との連携を運用しているが、メールが保護者に届かない、保護者がメールを受信したのかわからないといった課題がある。そうした状況を少しでも改善するため、アプリの導入を考えていきたい。

（3）F A X、押印の見直し

共有ファイルサーバーやG o o g l e ドライブの活用により、F A Xの利用をなくしていく。また、押印に関しても省略できるものは省略し、教員の働き方改革を後押ししていく。

（4）酒田市小中学校情報セキュリティポリシーの改訂について

今後も様々なアプリを利用することになるが、個人情報の取り扱いには十分注意していかなければならない。保管場所やセキュリティーはどうなっているのか、生成A Iの利用も含めて、時代に合うように情報セキュリティポリシーを改訂していく必要がある。